

羽田野長蔵編

「岡藩時代の雑事」

中野 幡能

日本は戦後、歴史ブームの時代になりとくに庶民の登場する近世の歴史や藩史が広く読まれている。こういう時に、故羽田野長蔵編『岡藩時代の雑事』が出版されたことは極めて意義深い。羽田野家は大分県緒方町原尻にあり、近世には岡藩緒方郷上自在組原尻村の庄屋で、大庄屋役等を歴任した旧家である。

長蔵氏は若くして庄屋になり、明治以後には戸長、村会議員、郡会議員をつとめた。晩年自家所蔵の古文書や、生存者の手記話などをまとめて『旧藩の雑事』二巻を書いた。これをこのたびの出版にあたり筆者のすゝめもあって改題したのである。

内容は一から二六項にわかれ、岡城、中川家系図並廟、岡藩屋敷、藩庁役人、在中諸役、軍事組織、監察刑罰賞賚、藩財政、産業、官

山土地、救民厚生、殿様遊行、通信交通路、宗教、生活風俗、掟書定申渡、天領、緒方惟栄、緒方地方の城堡、明治維新、明治二年の百姓騒動、西南役緒方地方の実況、奇聞珍事年表、五十年目の岡城、となつてゐる。これらの項目の中にはなお数箇の小項をつけて詳述している箇所もあるが、緒方地方を中心に岡藩全般についての史料がまとめられている。その点では「村明細帖の岡藩版」であるが、緒方惟栄から明治維新までであるので「岡藩外史」と言つてもよからう。

興味をひかれるのは歴史家でない村の政治家である編者の史観がみられる点である。その意味では出版に当って手を加えなかつたら一層価値が高かつたらう。稀少価値も加えられるからである。こうしてまとめられた史料の中には未見の新史料の数々もあり、聞き書、見聞手記にも、当時の庶民の姿がえがかれていて貴重である。このような意味において、これからの地方史研究必備の資料が新に加えられたとしても過言ではあるまい。

最後にとくに紹介しておきたいことはこの

本は三人のお孫さんによる自費出版であるということである。大分県としては明治百年の記念塔の一つであり、羽田野家としては祖先に対する何より尊い供養であると思ふ。お孫さんである羽田野二郎・佐藤高夫・羽田野哲夫の三氏に対し僭越ながら斯界を代表し心から慶賀の意を表すると共に感謝申したい。A5判、一八〇頁、クロス製本箱入非売品、大分県緒方町原尻羽田野二郎氏等発行。(筆者大分県立芸術短期大学教授、文学博士)